



特集 20周年記念祝賀会

挨拶
理事長 板倉哲郎

私たちの日中児童交流の活動は、20年を迎えることになり、今日ここに旅順政府と一緒に祝賀会を開くことができましたことは、本当に嬉しく、喜ばしいことです。

さて顧みますと、旅順で少年時代を過ごした故川畑文憲氏の呼びかけに、旅順に縁のある者たちが賛同して、1992年に「旅順児童教育後援会」を設立し、2001年には特定非営利活動法人「日中児童の友好交流後援会」と改めましたが、現在もその志を受け継いで活動を続けています。この活動が20年も続けてこられたことは、偏に会員一同の日中の友好を願う心の顕れに他なりません、この活動を支援して頂いて来た旅順政府の関係者のお陰でもあります。ここにあらためて会員の皆様と旅順政府関係者に厚く御礼申し上げます。

また、今年は、日中友好の私たちの気持ちを詠った石碑を櫻花園に建てさせて頂きました。そこを訪れる人達、特に子どもさんたちに、私たちの気持ちを何時までも伝えたい、と願ったからです。

私たちの活動で日本を訪ねた児童は85人、文通をした児童は千人を超えています。この人たちが中心となって日中友好が永遠に続くことを願って私の挨拶とします。

「20周年記念祝賀会」開催さる

去る2010年6月14日(月)大連市旅順口区にて特定非営利活動法人日中児童の友好交流後援会設立20周年記念祝賀会が開催されました。日本からは理事長を団長とした訪中団30名が参加。旅順口区政府および関係者も30名が参加し約60名が20周年を一緒に祝いました。旅順側の配慮で九三小や水師營中心小児童等50名ほどの児童による演技発表もありにぎやかな会となりました。◆

目次

理事長挨拶	1
櫻花園での石碑建立	2
書記祝辞	2
20周年記念祝賀会次第	3
旅順ミニアルバム	4
来日生徒代表スピーチ	4

桜花園に平和を祈る石碑建立



1992年旅順児童教育後援会の設立以来、故川畑文憲理事長の念願であった桜花園が、当時の会員の皆様のご協力のおかげで、1994年3月12日に二〇三高地の南麓に造成されました。

以来桜花園の桜たちは、旅順口区政府関係者の日々の管理とたゆまぬご尽力のおかげで、年々すくすくと成長し、熊書記の祝辞にもありますとおり、いまでは季節ごとにたくさんの花が咲き誇り、旅順の人々も愛してくださる場所となっているとのこと。

後援会は設立20周年を迎えるにあたり、会員の日中友好に寄せる気持ちと、旅順の母校の学校名を記した記念碑を桜花園の中に建立したい、という計画を旅順政府に示しご了承を

得ました。祝賀会が開催された14日の午後、皆で桜花園を訪ね石碑の除幕式を行ってきました。

碑文は遠藤節子先生（満93歳）の詩に劉愛君さんが中国語に翻訳してくれた文章を刻み、遠藤先生もともに序幕されました。

資金援助につき、旅順の各同窓会には多大なるご協力を頂きここに改めて厚く感謝申し上げます。なお碑の周辺には、純日本産のソメイヨシノの苗を寄贈植樹すべく準備をしています。◆



20周年記念祝賀会 熊博力書記 祝辞

尊敬する板倉理事長、ご在席する後援会の皆様、友人の皆様、こんにちは。

本日はお招きにより記念会に参加させていただきまた皆様と一緒に日中児童の友好交流後援会の20周年を記念することができ誠に慶びに堪えません。

私はここに中国共産党旅順口区委員会旅順口区政府として21万の旅順口区市民を代表し、遠くから来られた日本の友人のみなさまに心より歓迎の意を表すとともに、日中児童友好後援会創立20周年を称え、お祝い申し上げます。また、長年中日児童の友好交流のためにご尽力いただいた皆様に、崇高な敬意を表させていただきます。

時の流れは早いもので、すでに20年が過ぎました。後援会の20年のあゆみを遡らせていただくと、深く感じるどころがたくさんあります。

川畑先生をはじめとする一般の後援会の方々には強い責任感をもって中日児童の友好交流の促進のためにご尽力くださいました。なかでも献身的な力を尽し、生涯やりぬいて来られた川畑先生は、中日両国の青少年の友好のために多大な貢献をしました。彼はこの世にはすでにおられません、彼の愛の心と真心のこもった行動は、いつまでも私たちが前に進む励みとなっています。そして、後援会が両国の子どものためにくださったご努力は、必ずや、両国の人民の記憶に残ることと、私は深く信じています。

旅順と後援会の間には深いきずながあり、20年来旅順口区の青少年の日本語の勉強を大いに促進し、桜の植樹などの方法をとって友情を伝え、中日両国間の理解と交流の懸け橋となってきました。

援助を得たこどもは大きくなって中日友好促進の新しい力となりました。そしてご寄付いただいた桜も大きくなっていまはその花が満開となる美しさは、旅順のもうひとつの魅力となりました。これらのすべては後援会の皆様の努力と切り離すことができません。

いま、旅順は全面開放を迎え、歴史的に新しいスタート点に立っています。いまの旅順は、エコ経済の発展と科学発展のための都市建設に全力を尽くし、この得難いチャンスを生かして、明るい未来を上げたいと願っています。

ご在席の皆様が、後援会とおして、旅順の各分野での交流を広げることを期待し、今後とも皆様とともに手を携え、中日友好と共同発展の明るい未来を創るための関係を進めることを祈念しています。

最後に日中児童の友好交流後援会のさらなるご発展と、皆様のご健康とご多幸を祈ります。◆



日中児童の友好交流後援会設立20周年記念祝賀会 次第

1. 日時：2010年6月14日(月) 17:00~20:00
2. 場所：新紀元大酒店（大連市旅順口区）
3. 参加者：（約60名+小学生たち）
 - (1) 中国側：旅順口区書記熊博力、副区長郭曉迪、他政府関係者等
約30名
 - (2) 日本側：後援会理事長、副理事長、理事、会員、新体制の理事・監事等
約30名
 - (3) 招待者：
王恒杰、呂淑琴、金壽奉（欠）、劉愛君、九三小学校長、水師營中心小学校長、五五中学校長、五六中学校長、九三小児童、水師營中心小児童、朋友会会長呉超および同窓会会員、他
4. 祝賀会次第

開会 司会：外事辦公室王清副主任、後援会副理事長大倉孝三
挨拶：後援会理事長板倉哲郎
祝辞：旅順政府代表 熊博力書記
感謝状贈呈と名誉顧問称号授与 板倉哲郎理事長
後援会継承者新理事・監事紹介 江原孔江理事
川畑マリさんよりの書記宛て書簡代読（江原、肖輝）
5. 歓迎宴
旅順小学生たちによる歓迎表演披露
6. 歓談・食事
乾杯発声 熊博力書記
出席者スピーチ等

☆訪中団は後援会としては最後の訪中団となりましたが新体制においても一年に一度は訪中団を組みたいと思っています。◆

☆今回の訪中団には羽田澄子氏のドキュメンタリー映画撮影班が同行されました。映画の完成が楽しみです。◆



熊書記、教育担当郭副区長

小学生の演技プログラム

1. 舞蹈《年年有余》
九三小児童
九三小学校児童による舞踊＜年々余裕あり＞。この踊りは、人々の美しい未来への憧れと、幸せな生活への希望を表現している。
2. 歌曲《小巴郎》
水師營中心小児童
中国（新疆）地区の民族歌で、各民族の子供たちが楽しく勉強し元気に成長している姿と、故郷や国への愛を歌っている。
3. 舞蹈《闻鸡起》九三小児童
中国古代の物語。ある人が子供のころから胸に大きな夢を持って、毎朝早起きして剣術を練習し、最後に立派な人になる、という話。子供のころから夢を持って努力することを教えている。
4. 古典楽器演奏《粮满仓》
水師營中心小児童
中国古典楽器演奏。農民の収穫の喜びを奏でている。
5. 歌曲《啾呀子喂》
九三小児童
子供の無邪気で自由自在に遊ぶ様子と美しい夢の世界を見せている。
6. 舞蹈《过年》
水師營中心小児童
中国の伝統的な祭り春節を迎えるたび家族と一緒に過ごす楽しさを見せる。

特定非営利活動法人 日中児童の
友好交流後援会

〒143-0016
東京都大田区大森北 1-30-1
三喜屋ビル 2 階
TEL : 03-3763-7512
FAX : 03-3763-7513
e-mail: jidouforum@live.jp
http://d.hatena.ne.jp/jidouforum/

発行日 : 2010 年 7 月 28 日
編集責任者 : 江原孔江

旅順ミニアルバム

(会員撮影写真より)



旅順工大跡

旅順高校跡

旅順医専跡

旅順師範・附属跡



旅順中学跡

旅順高女跡

旅順第 1 小跡

旅順第 2 小跡

(現第五六中玄関)

“20 周年記念祝賀会” 生徒代表 大連市旅順高等学校 1 年于夢真さんのスピーチ

尊敬する日中児童の友好交流後援会のみなさま、友人のみなさま、こんばんは。

私は大連市旅順中学高等学校 1 年生于夢真と申します。本日ここで日中友好交流活動に参加したことがある学生の代表として、ご在席のみなさまに、私の体験や生活を報告でき光栄に存じます。

時間のたつのが早いです。いつのまにか日本を訪問したのは 4 年前になりますが、その時の経験や様子はいまでもはっきり頭の中に刻まれています。4 年前の 6 月、期待とあこがれをもちながら、私は初めて中国と一衣帯水の隣国日本へ参りました。私の成長にとっては、この経験は大変貴重なものです。その時の日本のおいしい空気やきれいな街並みや日本人の謙虚さと礼儀正しさと町中にあふれる平和と友好な雰囲気は、すごく印象深かったです。過去のことを思い出すと、感動と感激ばかり感じております。

九三小学校で行われた夏期日本語会話教室のとき、日本から来られた先生はとても親切でやさしかったです。いまでも私はあのときの写真をめくり、先生のことを思い出しています。その夏休みの日本語教室のおかげで、私の日本語能力は上達し、九三小学校の先生のご指導のもとで、第 17 回大連市キャノン杯日本語スピーチコンテストに参加し第 2 位を獲得しました。大連市政府のリーダーと後援会の理事から賞と励ましの言葉をいただき、それをきっかけに、私はなにをしても自信を持てるようになったことは忘れられません。

日本を訪問期間中は、日本の伝統文化や茶道を体験させていただきました。ホームステイのご家族からはいろいろお世話になりました。一生忘れられないことです。東京の小学校で二胡を演奏したとき、日本の先生やこどもたちから大きな拍手をいただいきとても感動的でした。このことも忘れられません。日本のこどもたちと一緒に歌や踊りを鑑賞したり、ゲームを遊んだりして、とても楽しく、やはりこれも忘れられないでしょう。日本の友人たちの親切と友情を知り、帰国する時の気持ちはきっと生涯忘れることはありません。この時の日本訪問は、収穫がいっぱいの旅で、私にとっては本当に一生の宝物です。

私は子供の時から日本文化に興味を持ち、小学校のとき日本のアニメに夢中になりました。そのときから文学創作を始め、1 万字ぐらいの「ハートキャプターさくら」の続編を書きました。学校生活をしながら、小説創作を続けております。やっと今年の 4 月、私の長編小説「青春万歳」が出版されました。つぎの長編小説「ひらひらさくら」は日本を舞台にした物語です。ですから、私の文学創作は日本文化と切り離せないかわりをもつものであるといえます。

これらの私の成績の取得は日中児童の友好交流後援会が提供してくれた日本訪問の体験と深いかわりがあると思います。後援会のおかげで、私は経験と視野を広げ、日本のこどもたちと交流ができました。私のようなこどもたちに発展のチャンスをおたえていただき本当にありがとうございます。

中国の青少年として私は、「青少年が強ければその国は強い」と信じております。

中日人民の 2000 年あまりの友好交流は、一時近代 50 年間は悲惨で不幸な歴史に阻みとどめられました。これは両国人民だけではなく、日本人民にも大きな被害をもたらしました。歴史を深く考えると、中日平和友好は両国の人民にとり運命と幸福とは緊密な関係があることだ、としみじみ感じております。

中日友好関係は戦争の洗礼を受けましたが、この 20 年間に渡っての中日友好に対する日中児童の友好交流後援会の皆様のご努力は、私たちにとってとても感動的です。

たくさんの方々にあって、旅順は子供時代の記憶を意味し、旅順に深い感情を持つと思います。ここで私は日中友好交流活動に参加したことのある学生たちを代表いたしまして、長年にわたる中日友好にかかわる後援会の皆様方のご努力に対し、心より感謝の意を表したいと思います。

最後に後援会の仕事が順調に展開できますよう、中日友好の道がもっと広くなりますよう心より祈念いたします。◆

